

## 編集後記

月日が巡り、鋼構造物に技術を盛り込むのだと、全社員が取り組んで過ごしているうちに、新しい年を迎え技報を出す時期になりました。

このたびは、北海道大学の渡辺先生から鋼橋を発展させるための一方向として鋼床版に着目された、巻頭言をいただきました。特に具体的な技術開発点を明示されており、頑張らなければ、御期待に沿えないものと思っています。とかく、沈滞気味な業界に活を入れられる御提言と受け止めさせていただきました。誠に有難うございました。

現在、本四架橋は最盛期であり、当社では、下津井大橋、櫃石島橋、番ノ洲高架橋、大島大橋を施工しております。これ等の長大橋を設計、製作、架設にわたって施工させていただき、技術者一同光栄に感じております。これ等の橋について特に執筆を依頼いたしましたので、特集の観を呈しています。

然し、技報のテーマは業務のあらゆる部門を考えています。創意工夫の跡を記録に残して置くことに意義があるためで、バラエティーに富んだ内容を期待しています。編集者として、執筆者が多くなること、及び技術を一層大切に、記録することを念願しています。

## 技報編集委員会

委員	長	島田	安正				
副委員	長	小塚	義夫				
委員		久保田	幸男	茂木	保孝	渡部	洋三
		永井	英司	椎名	薫	木越	俊夫
		鬼頭	省吾	田中	一男	中上	達生
		菅野	京七	高野	祐吉*	原	昭恵*
		清水	功雄*				

\*印 事務局兼務

## 宮地技報 第3号

発行日 昭和62年1月20日  
発行所 株式会社宮地鐵工所  
〒103 東京都中央区日本橋小伝馬町15番18号  
(日本橋SKビル) TEL 03 (639) 2111(代)  
印刷所 三好印刷株式会社